



有松まちづくりの会役員会（3月23日）

○ 有松観光案内所名称変更（NPO法人コンソーシアム有松の報告）

絞会館に「日本遺産有松観光案内コーナー」が設置されるに伴い、有松観光案内所の名称が「有松東海道 ご案内処」（予定）に変わります。開店日は、金・土・日曜日です。

HPの紹介コーナー その1 会報「有松」

有松まちづくりの会のホームページ「有松のまち」には、有松に関する情報がたくさん掲載されています。会報「有松」全巻、「有松桶狭間お宝カルテ」、「有松よもやまばなし」全巻など。どうすれば掲載場所にたどり着けるかの紹介コーナーを設けました。第1回は会報「有松」です。

会報「有松」は、昭和58年(1984)3月に第1号が発行され、今日に至っています。原則春と秋の年2回、今年3月で82号になります。その時期その時期のまちづくり会の活動の様子が分かります。

《 会報「有松」の呼び出し方 》（→：クリック）

「有松のまち」入力→検索→「有松のまち」→「有松まちづくりの会」→会報「有松」→各号

日本遺産観光整備事業進む

日本遺産認定に伴う観光整備事業(令和元年度)として、名古屋市観光推進室で進められている事業の一部を紹介します。

- 女性誌「25ans(ヴァンサンカン)」3月28日発売(5月号)
- 雑誌「SWITCH」4月20日発売 以上2誌 タイアップ広告
- 中日新聞 記事広告 3月14日、3月21日、3月28日 全て朝刊
(有松あないびとの会の協力で有松の魅力を紹介しています。)
- 日本遺産認定横断幕 有松・鳴海絞会館、名鉄有松駅等
- 名鉄有松駅の大型看板・MAPの改修、パンフレットラック設置
- 日本遺産有松観光案内コーナーの設置（絞会館入口）



記事広告(中日新聞)



横断幕(有松・鳴海絞会館)



大型MAP(名鉄有松駅)



観光案内コーナー(絞会館)

有松小学校 地域学習（2月27日）

3年生約120名を、例年通り有松あないびとの会が案内しました。その後の3月2日から、感染防止のために市内の学校が一斉休校になってしまいました。

「屋根に色々な瓦がのっている」「壁に白いペンキ？」子ども達は東海道沿いの建物が防火建築であることに気がきます。山車会館では間近に見える布袋さんにびっくり。校庭の東端にある装飾門は、昭和2年に小学校がここに移転したときの正門であったことを知ります。気づきと学びの楽しい一時でした。



←山車会館



↑装飾門での説明風景

「ありまつ福よせ雛さんぽ道」 まちの様子

新型コロナウイルスのため人通りのまばらな有松です。3月8日（日）、まちの様子取材しました。絞会館では、通常通り開館していましたが、団体客はほとんどないとのこと。寿限無茶屋では、「お客さんは半分も入っていない」と。たまたま店先でないびとの会の案内を受けていた観光客に、ご主人が福よせ雛などの説明をされていました。まちの活気のために日頃努力されている様子を垣間見ることができました。



有松天満社 春季大祭（3月15日）



今年の春季大祭は新型コロナウイルスのため、包丁式・献書・餅つき・縁日は中止となりました。しかし、神事・ご祈禱が行われていることもあり、思った以上の人出でした。地元の皆さんが天満社のことを大切に思っていることが感じられました。文嶺講の方が「昔ながらの静かなお祭りを思い出す」と仰っていたのが印象的でした。



福よせ雛 詐欺への注意呼びかけ（3月18日～22日）

福よせ雛が協力し、サイバー犯罪への注意が呼びかけられました。愛知県警が作成した新型コロナウイルスに乗じたマスク販売詐欺などへの注意を呼びかける旗(札)を、実行委員会の皆さんが人形約1000体に取り付けていました。

3月18日、有松を訪れた緑警察署長は「お客さんに札を見ていただくことで注意喚起ができればと思います」と語っていました。愛知県内で確認された不正送金被害は、先月末までに122件、被害額は約4700万円で、昨年を大幅に上回っているとのこと。

有松の福よせ雛が犯罪撲滅に役立ってくれるとうれしいです。

取り付け作業(棚橋家住宅)



鈴木金藏氏の史料の仕分け（有松史料調査保存会 3月24日）

絞中興の祖と言われる鈴木金藏氏の史料を借り受けることができ、史料の中身の調査と資料の分類が行われました。史料は、特許、木造機械図、写真、家系図等々があり、「有松志ぼり」に書かれている裏付け史料もありました。今後、史料として保存すべきものの見極めを行い、データ化する予定です。

同会はすでに故山田峯夫氏の史料も入手しております。また、有松の古老を訪ねて、保有史料の調査をさせていただくことにしています。どんな資料が出てくるか楽しみです。



史料の調査・分類作業風景

投稿 有松スケッチ 湯地昭夫氏

4枚シリーズ、今後順次掲載します。

「『福よせ雛さんぼ道』の準備が進む2月20日(木)に有松を初めて訪れた。想像していたよりも多くの伝統的建造物が残っており、大いに絵心をそそられた。伝統の仕事場や住居として現役の建物もある一方、外見とは別に内部では今風の仕事がされている建物や改修中の建物もあり、町並みを保存する地域の皆さんの苦労が想像される。日本遺産の一つとして、できる限り長く維持していただければと思った。」

井桁屋にて



有松の紙芝居のはなし2「愛知用水物語」

(文：浅野 康子 絵：西野 正暉 ・ 林 富美子)

披露する機会が余りなく残念ですが、素晴らしい作品です。
制作に携わったお二人にお話をお伺いしました。

■ 浅野康子さん 平成25年頃に「愛知用水を作った男たち展」という展覧会を知り出かけました。愛知池ほとりにある愛知用水総合管理所のギャラリーには、当時の写真や新聞記事の切り抜き、測量図などが並んでいました。今までさほど知識を持っていなかった私にはどれも重みのある内容でした。知多市八幡の篤農家久野正太郎さんの夢を知った豊明の浜島辰雄さんが、設計図を担当して、正太郎さんが私財を全てつぎ込んで完成した愛知用水のお陰で、知多半島の工業・農業の発展があることを知り、紙芝居にしようと思いました。感動した私は、早速新聞の切り抜きやパンフレットを何度も読み返して紙芝居にまとめました。

■ 西野正暉さん 浅野さんの原稿を基に林さんと共同で作り上げました。下絵を担当しましたので、図書館で愛知用水史を借り、浅野さんの原稿には書かれていない愛知用水建設に至る多くの人達の活躍ぶりが理解できました。絵を描くのに苦労したのは、大滝村の住民反対運動・久野さん浜島さんの顔・吉田総理の顔の似顔絵・浜島さんが満州で運河を造ろうとした満蒙のシーン、それに初めて日本に持ち込まれた建設機械類をどう表現するか？いろいろな本を見て、自分なりの想像を駆使して下絵を作り上げました。たまたま私の町内に愛知用水建設に携わっていた技術者(故人)の奥様がおられて、愛知用水物語の紙芝居の話を妻がしたら、是非とも見せて欲しいと懇願されたので、その方にも読んでいただくことにしました。後日、大変よくできた紙芝居だとお礼を言われました。

「主人の仏壇の前で読ませてもらいましたよ。」

催事・行事の予定

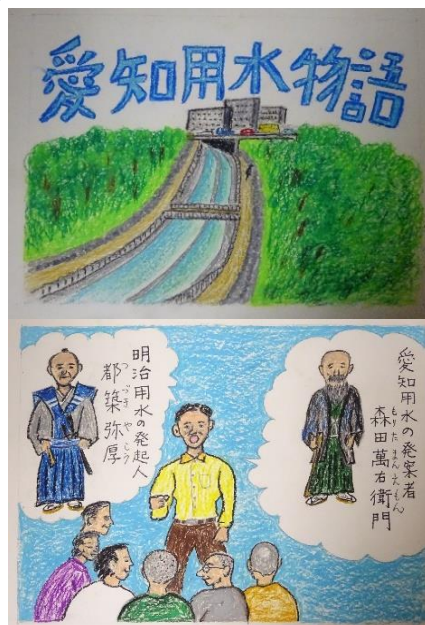
- 4月05日(日) 09:00 有松東海道青空市 商工会周り 青空市運営委員会
- 4月19日(日) 13:30 桶狭間古戦場保存会 総会 桶狭間公民会
- 4月26日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 4月27日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン
- 4月29日(水) 10:00 第32回あいち都市緑化フェア 大高緑地 愛知県

発行者：竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者：加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp



お進めスポット：えんだ小路



有松まちづくりの会は、ホームページを公開してます。

有松のまち

検索

有松探訪

浮世絵にみる有松絞り店2 **有松絞 竹谷佐兵衛店先** 有松あないびとの会 山本文雄

名古屋市博物館常設展テーマ10「浮世絵にみる有松絞り店」に展示された浮世絵を紹介します。

国立国会図書館デジタルコレクションに「有松絞の図」として収録され、インターネットで見ることができます。暖簾には「竹谷佐兵衛」とありますが、丸に十の家、紋は東竹です。竹田庄九郎の四代、庄六郎直政は、元禄末期に東店を設立し、東竹としました。当主は代々、左兵衛でした。

一立齋廣重こと初代広重が描いています。彫り師は「彫竹」で、版木は江戸で作られ、江戸で刷られたのでしょう。依頼した店の繁栄がうかがわれます。

左上の詞書きは左から、有松絞の説明をして、龍田の紅葉、東行話説の一説「田京に京は有松の美しき木綿」に及んでいます。歌は右から「有松のまつのみどりにくくりてし千とせの亀を君にあへなむ」とあります。

広重に「江戸名所百景」というシリーズがあり、「深川万年橋」では胴を紐で縛られ吊された亀が描かれています。放生会で、吊るし亀を買って放つという風習があり、落語の「亀太夫」では、浅草の淡島堂は針仕事の神様で、亀を放つと針仕事が上達するといわれた、とあります。

右上の絞りの反物は、実際にこうして干していたのでしょうか。演出でしょうか。店の前高く掲げた看板には「かけ値なし」とあり、左下には「浪花講」の札。元々は安心して泊まれる誠実な宿の組合に加入しているしるしでしたが、商店にまで広まったのでしょうか。

この店は現存し、活用されていますが、主屋の右半分は、戦後、取り壊されて鉄筋3階建ての医院が建てられました。長年の荒波を乗り越えて、よくぞ残ったと賞めてあげてください。



現在の竹田家住宅
(東竹)



絞り探求2 雪花絞 まり木綿 説明:伊藤木綿(ゆう)さん

絞りのお店に入ると、かわいいポップな柄に興味を示す女性の方は少なくないようです。9年前の2011年に開店した「まり木綿」、雪花絞など板締絞を主に扱っているお店を訪問し、お話をお伺いしました。カラフルな色使いの小物があふれていました。(説明要約:伊藤総俊)



Q1 板締絞のお店を始めたのは?

大学生の時、地域産業に触れるという授業実習で「張正」さんに教えていただき、大学に戻って試作を繰り返しました。この技法では、藍染だけでなくいろんな色を使って染めることができることに気づきました。色を差しやすい板締絞にはまっていきました。

刷毛で折り目に色を差すのは、それまでの液に浸けて染める歴史を考えると、技法として認められないものでした。でも、いろんな色を使うことで板締絞の可能性を広げたいと思うようになりました。

Q2 お店の製品の特長は?一押しの製品は?

全て板締絞ですが、刷毛で色を差しているので「刷毛染め」かな。「雪花風友禅」と仰るもいます。

ご来店いただいた皆さん、ぱっと見カラフルな手ぬぐいをお買い求め下さいます。インテリアとして壁に飾ったりする方もいます。

Q3 元はおしめ柄だそうで、ご苦労があったのでは?

おしめ柄だったので、しばらく使われていなかったそうです。年配者の中には「雪花なんて」と言われる方も。だんだん世代交代して拒否感も薄らいできたように思います。新製品をどんどん開発してきました。

《 ちょっと詳しく 》

板締絞とは、帯状の生地を折り紙細工の様に折りたたみ、三角形や四角形に蛇腹に順次折って重ねていきます。そして両端に板を当て生地を挟み固定して染めるものです。特に、三角形の頂点を染めると花模様になるため雪花絞とも呼ばれます。

もともと古代からある技法で、技法が単純であるにもかかわらず、折り方によっていろいろな幾何学模様が得られます。染色の方法を工夫し、多色染をして華やかに染め上げることもできます。このようなところに、各店で板締絞が多く置かれている理由があるのかもしれません。

有松で雪花絞が盛んに作られたのは昭和30年代。戦後おしめの柄として使われ、全国津々浦々に広まっていきました。当時、雪花絞を主業とする業者が6件あったそうです。斜陽化する絞り産業の中では唯一気を吐いていた存在だったようです。今日、また脚光を浴びてきているようです。

(伊藤総俊)

まり木綿店内



作業場(久野染工場)



作業工程

